40 周年企画　部会活動

会誌編集部の 2011～2013 年度

井上智奈美

31 巻から部長が交代しました。今までは一部員でヘラヘラっとしていたのに、突然責任者となり、とまどいのまま始まりました。また長年担当してくれていた部員が退職により退部しました。代わりに新しく入部してくれる人がいて本当に良かったです。

司書としての知識や理念もそれほどなく、また図書館業務からも遠のいている人間が部長なんて務まるのだろうかと疑問に思っていましたが、部員や会員の皆さまのおかげでなんとかやってこられているようです。

31 巻からは会誌の表紙を PP 加工にしました。これにより色にじみもなく保存できます。

誌面の特集は従来の方針を引き継ぎ、身近で実践的なテーマを取り上げるようにしました。また、なるべく会員の方に執筆していただくことも従来どおりです。

ただ、部員による執筆が目立った 3 年だったように思います。執筆と編集を同じ人たちが行うのはつらいものがありましたが、自分たちの言いたかったことが掲載できた「PubMe 道への第一歩」が出来上がったときは、みな達成感を味わいました。

また、医学情報サービス研究大会（MIS）などで気になる発表に遭遇したときは、ぜひこの内容を会員の皆さまにも伝えたいと思い、ドキドキしながらもその場で発表者に執筆依頼をすることもありました。投稿記事も少しずつですが増えつつあります。

とはいえ発行ペースは戻らず、このままでは編集活動が破綻してしまうため、33 巻からは年 4 回から年 2 回発行へと変更しました。

なんとか会員の知識を紹介したいという思いから、「図書館員の光る小ワザ集」を特集しました。ちょっとした知恵が図書館業務にこんなに生かされるという内容になり、楽しかったです。

部員による取材も行い、和歌山の図書館まで足を運び、図書館空間について勉強できました。図書館という場のあり方を再考できたのではないでしょうか。

PC 環境の発達により、タブレットやスマートフォンがよく使われるようになったため、連載の「使えるホームページ」を「使えるアプリ」に変更し、紹介することにしました。

同じメンバーで記事を考えていると、内容がマンネリ化してきます。会員の皆さまの意見を募集して、どんどん取り入れていきたいと思っています。部活動はちょっと無理かも？ という方でも、こういうことを教えてほしいとか、調べてほしいというご意見を、会誌編集部に伝えることは可能かと思います。部員一同首を長くしてお待ちしています。どうぞ今後ともよろしくお願いします。

いのうえ　ちなみ：三菱京都病院　図書室